

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[29]歳、 勤続年数[5]年、 現場経験年数[5] 年、 階級[消防士]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [隊員]
○当事者B	年齢[59]歳、 勤続年数[39]年、 現場経験年数[39]年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [車長]
○当事者C	年齢[29]歳、 勤続年数[7]年、 現場経験年数[7]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [機関員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	53歳 勤続34年 現場34年 消防司令 1年に数度 隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	全員	火災現場に出動する	
経過2	全員	火災現場に到着する	
経過3	当事者A	放水開始する	
経過4	当事者A	過呼吸症状及び両手の痺れを訴える	
経過5	当事者A	救急隊と接触	呼吸 28/分 顔面やや赤みを帯びる
経過6	当事者A	救急車へ収容	呼吸抑制 後頸部冷却
経過7	当事者A	現場を出発	
経過8	当事者A	病院へ到着	
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。避難・退避がうまくいかなかった。個人装備が不適切だった。後方からの監視が行き届いていなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

(部隊) 訓練の実施と安全教育の徹底

○装備・資機材の対策について

(署所) 冷却剤と冷却剤入りベストの購入

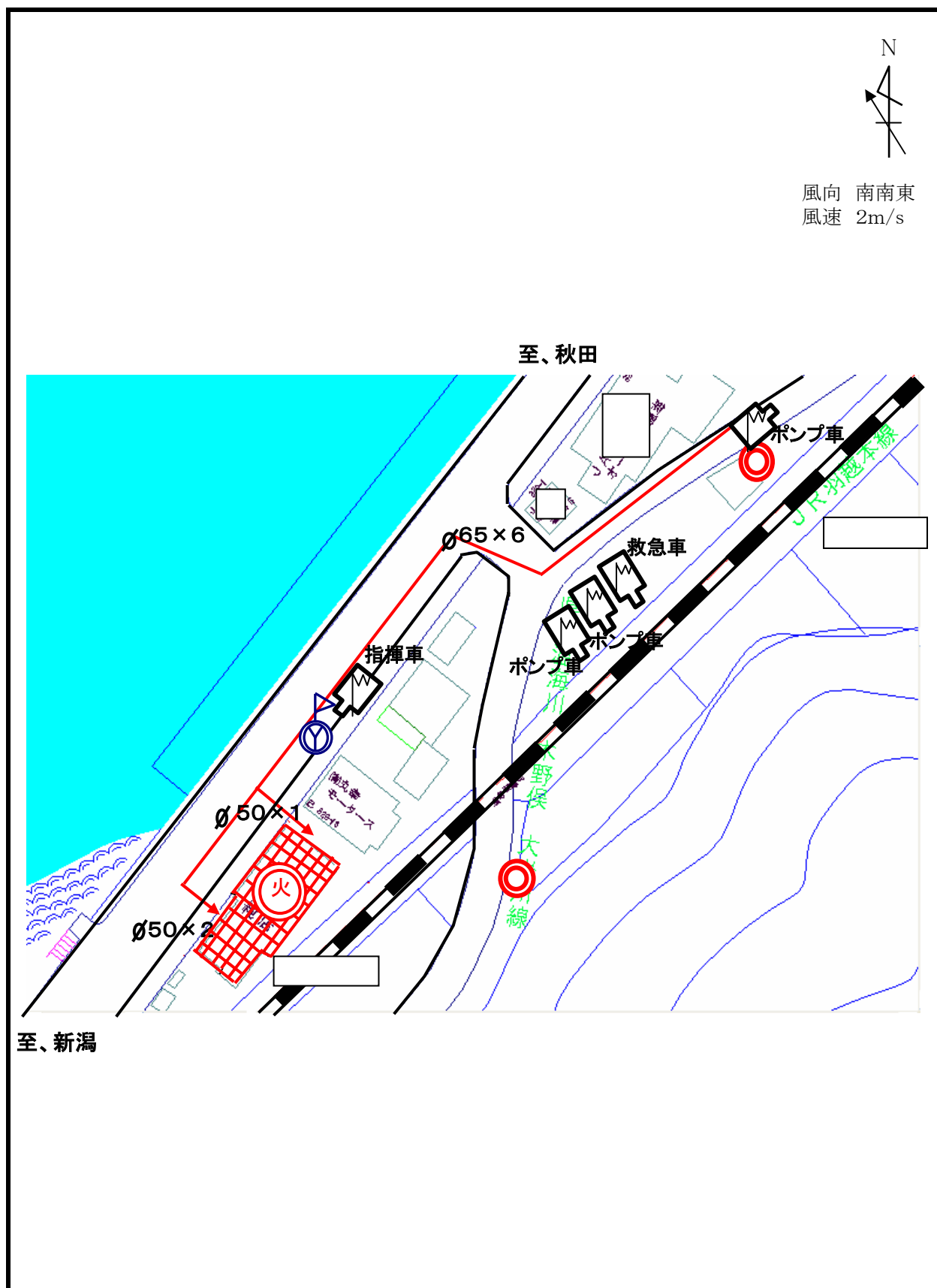
○活動環境の対策について

(全体) 小まめな水分補給の実施 危険箇所進入は 1 ライン 2 名以上での防ぎよ

○指揮・情報伝達の対策について

(全体) 危険箇所の早期の把握と伝達 隊員の状況把握

現場付近見取図



(09J0020)

・発生日時 :平成20年10月18日 午前 10時頃

経過	現場の状況	隊員A(隊員)	隊員B(車長)	隊員(機関員)	備考
		隊員／消防士 ・年齢 29 歳 ・勤続 5 年 ・現場 5 年 ・同様の活動:1年に数度	隊員／消防司令 ・年齢 59 歳 ・勤続 39 年 ・現場 39 年 ・同様の活動:1年に数度	隊員／消防士長 ・年齢 29 歳 ・勤続 7 年 ・現場 7 年 ・同様の活動:1年に数度	
出動指令 出動途上 現場到着 活動初期 活動中期 活動後期	出動指令				火災出動(4名で活動実施)
	木造家屋	現場到着			
		隣接建物との間で1人で放水開始			
		過呼吸症状及び両手の痺れを感じる			
		救急隊と接触し、救急車へ収容			出火建物からの輻射熱により右手首Ⅰ度熱傷を負った。また過呼吸、両手の痺れもみられた。装着していた空気呼吸器にあっては肩バンドが熔解した。

◎事故が発生した原因は何か？
○直接的な原因:状況判断に問題があった。 ・危険情報を把握、予見できなかった。 ・集中力、注意力がなかった。 ・避難・退避がうまくいかなかった。 ・個人装備が適切ではなかった。 ・後方からの監視の目が行き届いていなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因	
	(心理・体調について) ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。 ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (装備・資機材について) ・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。 (活動環境について) ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。 ・狭隘な場所であった。